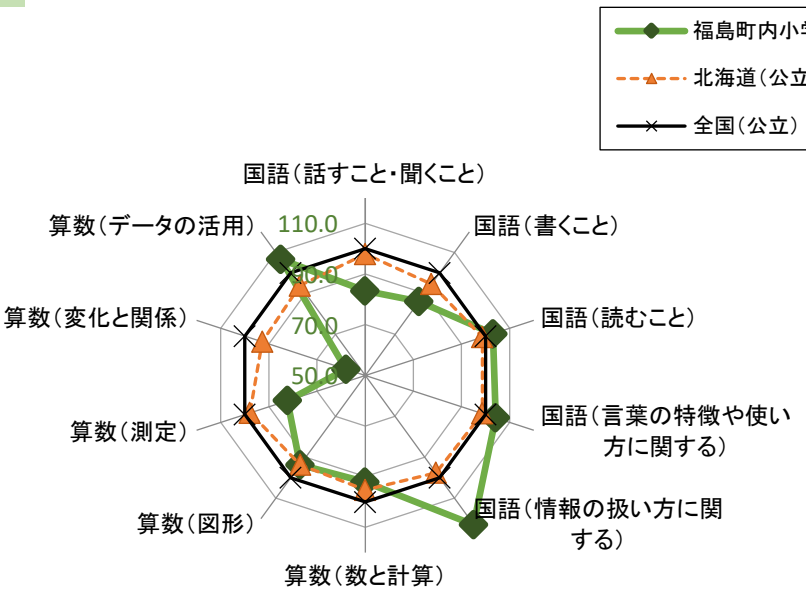
令和8年度全国学力・学習状況調査　福島町内の状況及び今後の改善方策　　小学校数:2校、児童数:14人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

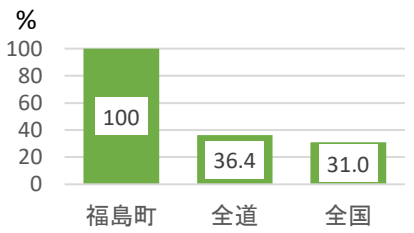
小学校



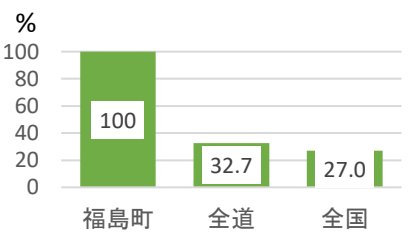
【平均正答率】

	小学校	
	国語	算数
福島町	60.4	52.2
北海道（公立）	59.6	53.6
全国（公立）	60.9	56.4

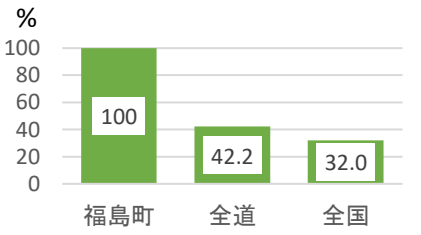
【学校質問】
授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか



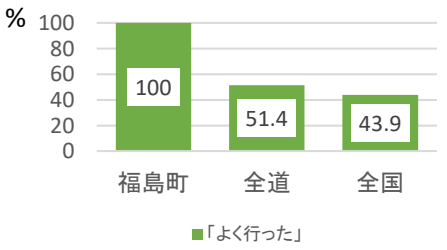
【学校質問】
前年度までに、関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習を行いましたか



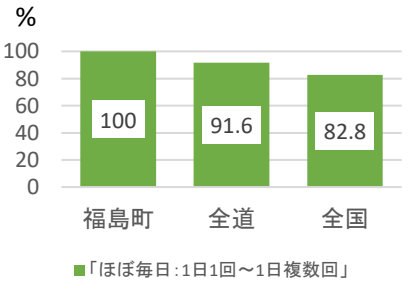
【学校質問】
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか



【学校質問】
算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして児童に筋道をたてて説明させるような授業を行いましたか



【学校質問】
前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



○ 調査結果からの分析及び課題

【国語】

友達や周りの人の考えや情報を活用して課題解決に取り組むことにより、「情報の扱い方に関する事項」領域の平均正答率が全国及び全道を上回るなど一定の成果を得ることができた。また、授業で、学習内容に関連する既習事項の振り返りに取り組み、正しい言葉の使い方などに気を付けた学習を継続することで「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域で全国及び全道の平均正答率を上回ることができたと考えられる。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域の解答状況により、明確な論点で自分の考えを持つことや他に伝える学習が形式的になっていないか、話し合いを意見の交換のみで終わっていないかなどを振り返り、自分の考えを深めたり、発展させたりすることが今後の課題である。

【算数】

授業の中で問題に対して、どのデータを使って解決を図るか、予想を立てたり、使う理由を考える取組を通して、「データの活用」領域の平均正答率が全国を上回るなど一定の成果を得ることができたと考えられる。また、ICT機器を活用して図形の特徴などについて視覚的に理解を図る取組により、「図形」領域の平均正答率が全国に迫る成果が得られたと考えられる。

「変化と関係」領域の解答状況から複数の数量の関係性や規則性のある変化や小数や分数での表し方の違いなどに着目したり、解決方法を書いたりする取組を充実させること及び算数に限らず、説明において、理由を示すなど取組の充実を図ることが、今後の課題である。

○ 今後の取組方策について

・全ての教科等において、深い学びを実現するために、理由や根拠を示させるなどの取組の充実を図るとともに、学校全体で対話を重視した学習に取り組む。
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のために、ICTの効果的な活用に取り組むとともに、児童自らの意志で学びに向かうことができるよう、様々な活動場面で児童が意思決定をし、前向きに取り組む機会の充実を図る。